



1・2 クラブメンバーの子どもたちには、森の冒険、クライミング、木登り、ツリーハウス作り、アスレチックコース作り、昆虫ハンター、マウンテンバイク、親子陶芸教室、自然素材で作る工作、サマーキャンプなど季節に合わせて楽しいアクティビティが用意される。
 3・4 クラブメンバーには乗馬のプログラムだけでなく、馬主会員としての馬の世話を始め、馬と過ごすクラブライフを満喫できる。アニマル・ウェルフェアの概念に則り、自然と人と馬が幸福に暮らせる環境を創造することも、クラブライフの大きな目的。
 5・6 微生物含有量が多く、土壌改良力に優れた堆肥を使い環境や健康に配慮。野菜の苗の植えつけから栽培に最適な栄養素を含む堆肥をクラインガルテンに使用し、地球環境に優しいクラブ内での環境循環システムの構築を目指す。(写真はイメージです)

Information

東京クラシッククラブ

千葉県千葉市若葉区和泉町237番地3 <http://tokyo-classic.jp/>



ジャック・ニクラス
Jack Nicklaus



株主会員（次頁参照）に贈呈されるリヤドロ製のゴールドペン。イベント当日の入会会員と発起人には、ジャック・ニクラス氏の直筆サイン入りが贈られた。

東京クラシッククラブの会員制度は従来の会員権制度、預託金や書換料を見直し、シンプルなメンバーシップ制（入金金十ヶ月費）を導入。上質なクラブライフを維持するために、入会審査（株主会員1名または会員2名の推薦状十書類審査十コミッティーメンバー面接）が実施される。
 およそ700年前、英国に誕生したゴルフ。米国に渡り、日本・神戸に入ったのは今から約100年前のこと。戦後の日本では、企業の接待用に普及し、特にバブル期を経て大きく発展することになった。バブル期においては、真のゴルフ場づくりよりも、日本の発明であつ

た預託金制度をもとに投機的な目的でのゴルフ場建設ラッシュを迎える。やがて国内のゴルフ場数は2400か所を超えることになり、米国・英国に次ぐ世界第3位のゴルフ大国が生まれた。
 しかし、いわゆる名門と呼ばれるゴルフコースは、財界の社交場として発展してきた経緯から、厳しい規律の中で閉鎖的に運営されてきた。一方、バブル経済の崩壊により、日本のゴルフ場の寡占化が進み、一般的なゴルフ場の大衆化という二極化現象を生んだ。
 本来のカントリークラブは、スポーツを楽しむために郊外につくられた、会員制のクラブおよびその施設を指す。会員制は家族単位が帰属することが基本であり、クラブを中心にソサエティが形成され、結婚式やさまざまなイベントも行われる。
 日本にもカントリークラブを名乗るゴルフ場は少なくないが、広大な用地を必要とする乗馬などの設備はなく、ゴルフコースだけの場合がほとんど。月例コンペという交流はあっても、ほぼすべてがゴルフのための会員権。従って、メンバー同士の家族が集う、クラブライフを中心としたライフスタイルが育つことはなかった。

そこで「東京クラシッククラブ」は、東京都心に住むソサエティを形成するにふさわしい人々のための、真のカントリークラブを目指して誕生する。今後定期的に募集説明会と現地視察受付を行うことも予定されている。

ジャック・ニクラスが作る日本で最後のゴルフ場 国内初となる真のカントリークラブ 「東京クラシッククラブ」が2016年春に完成

全長7220Y、IP280Yとして設計当初から計画されているコースは国内には皆無のため、上級者が深く納得できる戦略性に飛んだチャンピオンコースであると同時に、トッププロからアマチュアまで幅広いレベルに応じてチャレンジングな醍醐味を十分に味わえる環境に配慮した設計を心掛け、まさにゴルフファーマーにとっての理想郷の誕生。設計者のジャック・ニクラス氏は、2014年に米国ゴルフマガジン誌が選ぶ「[Architect of the Year]」にも輝いている。世界で類を見ないゴルフ場設計の第一人者である氏が、偉大なキャリアの集大成となるゴルフ場として、東京クラシックゴルフコースを選んだ。



東京 アメリカンクラブでのTOKYO CLASSIC CLUBレセプションに出席した名誉発起人のジャック・ニクラス氏。「日本には真のカントリークラブがなかったと聞く。この新しいクラブはゴルフコースは勿論の事、日本で初めての世界基準のコンセプトのクラブとなる。私も名誉発起人として誇らしいし、とても楽しみです」などと述べた。



なだらかな丘陵地に計画されたクラブハウスは、両手を広げたように水平方向に伸びる平屋建ての設計計画だ。



TOKYO CLASSIC

ゴルフコースを中心に、乗馬や有機農園、教育の森など、4つの充実クラブライフを実現

東京クラシッククラブの中核をなすゴルフコースは、姉妹コースの名門「北海道クラシックゴルフクラブ」をも手掛けた、帝王ジャック・ニクラス氏、自らの設計による、おそらく日本で最後となるであろうチャンピオンコース。日本有数の規模と環境を誇るドライビングレンジを持ち、ゴルフに加えて乗馬も楽しめる「馬主クラブ」、「クラインガルテン」（有機農園）、メンバーの子供たちがサマーキャンプなどで集う「教育の森」といったライフステージに合わせた4つのアクティビティが用意される。ゴルフのコースメンテナンスは、日本で唯一米国ゴルフコース管理協会(GCSAA)認定の資格を持つ大江康彦率いるクラシックメンテナンスチームによる世界最高レベルを目指す。アスリートゴルファーからアブレイジゴルフファーマーまでが平等に楽しめるゴルフライフを実現する。

馬との触れ合いを通じたアニマル・ウェルフェアや、日本初のゴルフ場内外で騎乗できるホースバックトレーニング、さらに無農薬野菜の栽培や陶芸づくりにサマーキャンプなど、森を教室とした親子で楽しめるアクティビティも魅力。親子3代にわたって、メンバーの家族全員が楽しめる充実のクラブライフがポイントだ。